

加藤恭子ゼミナール 登竜門企画 二十歳の頃

人は財産

株式会社三越伊勢丹ホールディングス

代表取締役社長執行役員 大西 洋 氏

C班：相原・石上・久本・古田

《はじめに》

私たちはゼミの企画である『二十歳の頃』を進めるにあたって、調べる企業について考えたときに百貨店に興味を持ち、最近三越と伊勢丹が統合してさらに大きくなった会社を指揮する社長について調べようと思いました。伊勢丹新宿本店はここ3年の全国百貨店売上ランキングで首位をキープしています。様々な百貨店がある中で、このようにとても大きな会社を経営していく社長がどのような人物でどのようなことを考え学生生活を送っていたのか、について取材しました。

《インタビュー内容》

1. 経歴

麻布高校を卒業後、慶応大学 商学部に入學して1979年に伊勢丹に入社しました。そして紳士服、メンズ館のアシスタントバイヤーとして6、7年勤めた後、社長直轄の新吉祥寺店開設プロジェクトで2年勤めたそうです。本社のスタッフをいくつか経験して、マレーシアにも4年滞在し39歳で帰国し再びメンズのバイヤーを務めました。後、紳士営業部長となり経営企画担当の執行役員を約1年間務め、立川店の店長に就任します。統合前の三越に出向し、2009年に伊勢丹の社長に、12年に三越伊勢丹ホールディングスの社長となり現在に至ります。

2. お仕事について

社長のお仕事は、経営はもちろんのこと、会社のステークホルダーいわゆるお客さま株主様、従業員、地域社会に対してコミットメントして企業価値をあげることです。

大西社長のいう企業価値をあげるといことは、数字的な面で時価総額をあげることと外部からの評価という面でブランド価値、人財力をあげることだそうです。

大西社長は人の上に立つものとして「ぶれない」ことを大切にしていっています。

3. 二十歳の頃

大西社長は高校生の頃、将来何になりたいということはあまり考えておらず、とりあえず大学は出ておこうということで一年浪人して慶応大学 商学部に入りました。今、大西社長は「もっと勉強しておけばよかった」と後悔しています。また学生生活ではサークルやゼミなどに所属せず、アルバイトや、同好会などいろいろなことをなさっていて、例えばアルバイトは家庭教師・クラブ、同好会はゴルフ同好会に所属し、さらにスポーツ新聞で原稿を書いていたそうです。将来の夢は記事を書いていたこともあり、自分の意見を伝える記者になりたかったそうです。

4. 二十歳になる私たちへ

現在に至るまで大西社長は、「人の話を謙虚に聞く」「誠実」などを信条にしてきたとのこと。二十歳になる私たちへのアドバイスとして大西社長の見解では、今の若者は守りに入っていてビジネスチャンスを逃している。大切なことは自分の能力を信じて新しいことに挑戦すること、また留学を経験して視野を広げること、とおっしゃっていました。

《まとめ》

今回、大企業の社長の生の声を聞く貴重な機会をいただいて、これからの学生生活に生かしていけるような話を伺うことができました。なかでも、固定概念を破壊して新しいことにどんどんチャレンジすることと、一人一人が80%ではなく100%の努力をすることを前提にしたチームワークを大切にする話は特に心に響きました。これらの話を糧に厳しさと仲間意識の両立をしていきたいと思います。

このような貴重な機会を用意してくださった加藤恭子ゼミと、アドバイスを下さった先輩方に感謝するとともに、お忙しい中、私たちのインタビューに快く承諾して下さった大西 洋社長に心から感謝し、改めて御礼申し上げます。

